オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(6)(HP 収載)
－最新アナログシステムでの試聴(6)－

１．始めに

前報(5)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

２．モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 と ThorensTD124 を使用します。

音源は、新たにモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回も、弦楽四重奏です。

TELEFUNKEN(キングレコード)

モーツアルト　弦楽四重奏曲第 22 番変ロ長調

弦楽四重奏曲第 23 番ヘ長調

アルバンベルグ弦楽四重奏団

３．モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

TELFUNKEN(キングレコード)盤ということで、DECCA、逆相、第 4 時定数 High で聴いていきます。

前報(5)の盤と同じ曲、同じ演奏で、ともに 1976 録音ですので、マスターは同じでカッティング違いと推察されます。

LINN LP-12 の再生では、前報(5)の TELFUNKEN オリジナル盤は、爽やかで優雅な演奏という印象を述べましたが、この TELFUNKEN(キングレコード)盤は、もう少しくっきり、はっきり系の音であるもののアルバンベルグ弦楽四重奏団らしい緊張感のある演奏スタイルは明確に伺えます。

ThorenTD124 の再生では、前報(5)の TELFUNKEN オリジナル盤は、爽やかに生き生きとした演奏という印象を述べましたが、この TELFUNKEN(キングレコード)盤は、やはりくっきり、はっきり系の音ながら、アルバンベルグ弦楽四重奏団らしい緻密な演奏スタイルが伺えます。

４．まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入および ThorenTD124 のターンテーブルシートの交換などの総合的な効果として、LINN

LP-12 と ThorenTD124 それぞれの TELFUNKEN オリジナル盤とは違った
TELFUNKEN(キングレコード)盤としての魅力を伝えてくれました。

以上